

祝一周年

皆様の励ましに支えられ創刊一周年になりました。これからもどうぞよろしくお願いたします。

松山櫛の状況は:

江戸時代に田主丸町森部で発見された櫛の優秀な品種「松山櫛」。朝倉市に一ヶ所だけ残っていた松山櫛を、故郷である田主丸に復活させるため、接ぎ木を行い一本だけ活着に成功しました。今のところ、なんとか育っています。

購読無料

第25号

1日・15日発行・櫛に関する情報求ム!
福岡県久留米市田主丸町で活動中!
編集・発行 松山櫛復活委員会
幹事・矢野真由美

松山櫛便り

耳納山の片隅で失われてしまった櫛紅葉の景観を復活させることを目的に、櫛の素人がまったりとその様子を伝えていく会報です。

ブログ公開中「松山櫛復活奮闘日記」 <http://blog.goo.ne.jp/elster/>
連絡先 e-mail : elster@mail.goo.ne.jp ホームページ「松山櫛復活委員会」 近日公開予定



完成品は大きなサイズの芯ばかり。

前号までのあらすじ
日本人が明るさと美しさにこだわってきた和ろうそくの炎。その秘密は「芯」にあります。本場であ

和ろうそく芯物語 その5

いつものまにか 芯の世界に異変が。

巻くのは大きい芯ばかり

芯巻き職人・徳田さんの巻く芯は大きいサイズのろうそく用です。主に寺院で使われますが、小さいサイズは作らないのでしょうか。
「昔は作ってたわよ。っていうか、昔はむしろ小さいサイズばかり頼まれてた。」

朝倉市はもとと芯巻きの本場で、今も現役で和ろうそくの芯を巻いている職人さんがいます。さつき会って見学してみると...

劣化した芯

私は徳田さんに、現在出回っている小さな芯を見せてみました。すると徳田さんは一見見るなり、
「おかしい。これ、なんなの。」
と、異様なものを見るような目つきになっていきます。
「普通に出回っている小さなサイズの芯ですよ。」
「でも、こんな、こんな巻き方ってある?見て、この芯の先端。みっともなく出てる。ひどい。こんな芯、ありえない。」
どうやら、あまりにも出来の悪い芯のようで、これが製品として出回っていること自体、徳田さんには信じられない様子でした。



左が徳田さんの芯。右が現在出回っている芯。先端の形が明らかに違う。

「ほら、普通のローソクに押し入れちゃってるのよ。あれは安いでしょ。割に合わないんだって。やっぱり時代かしらね。」
でも和ろうそく店では、小さいサイズも大きいサイズと同じように売られています。需要がなくなってきたわけではないのに、なぜ徳田さんは大きいサイズの芯しか巻いていないのか。
いったい誰が、小さいサイズの芯を巻いているのでしょうか?

「私たちはね、芯屋さんから、それはもう厳しく指導してこられたわけ。見てこれ。こんなみっともなく和紙が出るでしょ。」
よく見ると明らかに違います。徳田さんの芯は美しく形が整っているのに比べ、この芯はどこぞ

ころに隙間があるし、全体的にゆるい感じで巻かれています。特に先端の形は、徳田さんのがきれいな三角形をしているのに比べ、ただ余った紙が出てるだけです。
「おかしい。芯屋がこんなへたくソな芯を扱うわけない。」
最高品質の芯を作り出す芯巻き職人として、徳田さんはご立腹でしたが、私の疑問は膨らみました。小さなサイズの芯。その疑問を追求していくと、やがて芯巻きの世界に、驚くべき異変が起きていることがわかってきました。

続きは次号にて

※本会報を許可なく複製・転載すること、または部分的にもコピーすることを禁じます。